

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教職教育研究センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教職課程履修者への指導・相談体制を強化（神戸三田キャンパスとの格差是正を含む）するために、教職員の増員等を含んだ具体的施策を推進する。	→学生相談室を中心とした教職課程全般にわたる学生支援の強化。スクールサポーター、スクールボランティア、スクールインターシップ等へ参加する学生支援のための事前・事後指導の実施。教員採用試験に向けての学生支援（「教職勉強会」への教員の関わりの強化）。専任教職員の配属による神戸三田キャンパスにおける学生支援活動の充実。	B	B			
2. 教育委員会等との連携により、教育研究活動の活性化を図る。	→連携協定を結んでいる教育委員会等との共同研究の推進。国及び地方自治体の要請に応じたセンター教員の派遣。教員免許更新講習、教職10年経験者研修の実施。受託研究員の受け入れ。	A	A			
3. 同窓教員との連携強化を図るために、同窓教員対象の「教職研究会」を主催・共催するとともに、同窓教員を対象としたSNS（social networking service）を拡充していく。	→高弦会（兵庫県高等学校同窓教員の会）、関学教師の会（高弦会を含む、校種、地域を問わない同窓教員の会）等の同窓教員組織との連携強化。同窓教員を対象とした研究会の充実（現在は年6回開催しているが、これを年8回開催に増やす）。同窓教員を対象としたSNSの拡充（現在は参加者数10名であるが、これを200名に増やす）。	A	A			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない (理念・目的) 「関西学院大学らしい教員」の養成を目標に教職課程の運営を行う。 スクールモットーに基づき、同窓教員も含めたKGマインドを持った教員の育成。
	(説明) 教員採用試験のための「教職勉強会」が、学生の自主的な運営のもと、上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスで週2～3回開催され、毎回10～15名程度の学生たちが参加している。また、教員採用試験のための模擬面接には、毎年、非常勤講師や同窓の現役教員が、ボランティアで指導してくれるなど、マスターリー・フォア・サービスの精神を感じることができる。
	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 本学のホームページ上の教職教育研究センターのページに掲出している。 また、同窓教員のためのSNSのフレームが完成し、同窓教員に対して参加の呼びかけを行っている。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 原則、週1回開催している「センター連絡会」や、月1回開催している「センター運営委員会」において、日常発生する学生指導についての諸問題や、文科省から発せられる各種情報について、センターの全構成員（教員・職員）が情報を共有するとともに、課題についての解決策等を議論している。また、「センター評議員会」を通じて、各学部等との教職課程運営上の諸問題について、連絡・調整を行うとともに情報の共有を図っている。
	その他

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価
 卒業生がどの程度スクールモットー(マスターリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
 理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。	
小項目0.0.1	教員採用試験の合格者が年々増加してきている。2007年度に100人を超え、毎年約10%ずつ増加しており、2010年4月に教職に就いた者は140～150名である。また、同窓教員のネットワークも徐々に構築が進み、同窓教員の勉強会も2010年度は年7回開催され、2011年度も7回開催の予定である。
小項目0.0.2	学外者からの科目等履修生制度による教職課程の履修や、教員免許状更新講習の受講などの問い合わせが寄せられている。
小項目0.0.3	「教育実習校訪問指導」等に各学部教員も参画し、教育実習の現状や、諸問題についての認識等が得られている。
その他	
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。	
小項目0.0.1	「勉強会」での学生の指導の多くを非常勤講師に頼らざるを得ない状況になっている。定型的な業務として定着させるために専任の教職員の増員を実現させる。
小項目0.0.2	ホームページの更新・充実の作業は主に職員によって行っているが、常に管理している余裕がない。各職員の担当業務に対する負担が多く、ホームページの管理運営に割ける時間が少なすぎる。人員増加をはかり、少なくとも更新を確実にこなせる時間的余裕を確保する。
小項目0.0.3	文部科学省からも教職課程の全学的な取り組みが求められている。各学部の構成員（教員・職員）が教職課程への理解・認識を深められるように、まずは、センター評議員会を通じてより一層の情報提供を行う。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
★	小項目0.01	学生への日常的な指導体制は満足な状態ではない。現在、センターの5人の専任教員は週1日の神戸三田キャンパスでの授業と、2～3日の上ヶ原での授業に加えて、大阪梅田キャンパスでの大学院授業を担当しており、その間にセンター内外の各種会議に出席している。 また、定型的な相談・指導は事務職員が行っているが、事務長以下4名の専任職員で、上ヶ原と三田の両キャンパスで、1学年300人以上の教職希望者の対応を定型事務を含めて行っている。加えて、教育学部学生で中高の免許を希望する学生の対応も行っており、現在の人員構成では十分な学生指導体制が取れない。
	小項目0.02	ホームページの更新・充実の作業は主に職員によって行っているが、常に管理している余裕がない。各職員の担当業務に対する負担が多く、ホームページの管理運営に割ける余裕がほとんどない。
	小項目0.03	教職課程は各学部・学科が望んで設置していることの認識度が低く、教職課程を目指す学生が授業担当者に相談しても、適切な指導が得られないことが往々にしてある。少なくとも、担当している科目が教職課程に関係しているかどうかという認識は持って貰いたい。
	その他	
↓		
【次年度に向けた方策 (2)】改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
	小項目0.01	上ヶ原、神戸三田の両キャンパスでの日常的な学生指導体制が取れるように、少なくとも各1名の専任教員の常駐を早期に実現したい。
	小項目0.02	人員増をはかり、情報発信についてのセンスや知識・技能のある職員の確保と育成を行う。
★	小項目0.03	教職課程が全学的な取り組みで行われるものであることを、大学の全構成員に理解してもらうために、センター評議員会だけでなく、教職課程の全学体制を検討する委員会や、学部長会、大学評議会などに情報発信を行う。
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】		
★	その他 (自由記述)	近年、文部科学省からの指摘もあり、他大学では本センターのように全学的に教職課程を管理運営する組織の設置が相次いでいる。本学でセンターが設置された15年前は、先進的であったが現在では、他大学のほうが充実している側面がある。上記に課題としてあげたとおり、指導体制が限界にきており、他大学のように、退職した中・高教員（特にOB）を任期制教員等の専任教員として採用し、常時学生の指導に当たれるような体制づくりを早期に行う必要がある。

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

- 目標が着実に達成されていること大変評価できます。また、「効果が上がっている事項」および「改善すべき事項」も適切に記述されています。
- 全学的な教職課程の管理運営の組織であり、学部ではない組織としてのセンターの理念・目的については、学内・学外での認識不足が見られると思われます。しかも、2009年度の聖和大学との合併により、関西学院大学教育学部が発足し、同学部との関係で、従来以上にセンターの理念・目的に混乱が生じてくる可能性があります。しかし、とにかく、センターは、「関西学院大学らしい教員」の養成を理念・目的としており、上記「現状説明」にあるような、専任教員を中心とした幅広い活動を展開し、その成果を拡大しているわけだから、そのような認識を学内・学外に広める努力を一層継続していくことが期待されます。たとえば、小項目0.0.1の「教員採用試験の合格者が年々増加してきている。2007年度に100人を超え、毎年約10%ずつ増加しており、2010年4月に教職に就いた者は140～150名である。」に示される実績が、センターの努力の結果であることを広めることが期待されます。
- 丁寧で誠実な記述です。また、数字を示すなど具体的な記述に注意されています。
- スクールモットーに裏付けられた自主的な勉強会、それを支えるボランティア、合格者、就職者数の増加など、成果をあげられています。
- 小項目0.0.1の現状説明で記述いただいたことは、理念・目的を示すものとして大変すばらしいことだと思います。その結果、効果が上がっている事項における、合格者数や就職者数、開催回数が増えたことに繋がります。しかしながら、伸ばさせる方策や改善すべき事項では組織的な内容の記述になっています。本小項目は、理念・目的の設定の適切性ですから、そのような表現を工夫されることもお考えください。
- センターの諸活動を記述する項目がなく、ご苦労いただいたと思いますが、活動状況は、「4. 教育研究組織」の4.0.1において、本学の独自の要素として（研究活動の状況）を設定しています。これに準ずるものとして4.0.1に記述していただければと思います。従って、小項目0.0.1に記述されていることを整理し4.0.1に記述されればどうでしょう。本項目で設定されている目標・指標もこの観点から見直されてもいいと思います。また、小項目0.0.2、0.0.3についても同様のことが言えます。
- 同窓教員のためのSNSフレームの完成は評価できます。昨年度課題とされた維持運営費用の問題は解決されたのでしょうか。
- 自由記述での記述内容は、4.0.1での記述が適切だと思われます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

指摘された、項目の移動等については、次年度評価に反映させていただきます。

☆